

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400129		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム乙川		
所在地	愛知県半田市飯森町53-1		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaisokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&ligyosyoCd=2392400129-00&PrefCd=23&Versio
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所(株)		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26		
訪問調査日	平成27年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てであり、リビングを南側に集中させ、広々としたリビングがあり、各利用者様に合わせて、生活上での残存機能の維持、向上が図れるようにしている。
 開所して以来、食事を3食を施設内で作り、提供しており、利用者様に準備の手伝いをお願いして、これまでの培ってこられた力が少しでも発揮できるようにしている。食事のみならず、食器拭き等の片づけや掃除、洗濯物干しなどの家事についても積極的にお手伝いして頂いている。
 隣が医療機関であり、その医師による訪問診療が受けられ、常に連携を図り、スムーズな医療が受けられるようにしている。歯科についても提携歯科医療機関より歯科検診や訪問診療、送迎付きの受診とその方々に合わせた対応をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目となり、理念を意識した支援、利用者の個別支援の充実、乙川通信の発行、職員教育の充実など事業運営が明確になってきている。食事作りや掃除を行う職員と、利用者支援をする職員とに分けており、それによって利用者に目が行き届き昨年度よりも個別支援が充実してきている。また、言葉遊びや身体機能維持を図る体操などレクリエーションを毎日取り入れ、事業所で楽しく生活できるよう努めている。家族交流会や運営推進会議に家族の参加が多く、職員と良好な関係が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			<input type="radio"/>	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に復唱を行い実践につなげるようにしている 業務の中で行うように心がけている 理念等を掲示し、意識して業務を行っている 人目につくところに張り出している 半年ごとに目標を決め、振り返りの反省もしている	法人の理念と事業所の理念は、交代で毎朝復唱しており職員の周知がされている。 また、利用者に対しての支援が理念に沿っているかを確認しながら支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が行っている イベント等は前もってお知らせしたりして交流を図っている	開発地域で地域との交流が図りにくいこともあり、事業所としては近隣の喫茶店やスーパーなどに利用者を出かけて、地域の人との交流を図るように努めている。喫茶店とは顔馴染みとなり、席の確保などに配慮して貰える時もある。	地域との交流が図りにくい場所ではあるが、地域の福祉会館を利用し利用者の交流の場を広げるなど検討されることを望む。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が行っている 学生等を受け入れ、日常生活の中で共に生活し支え合っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が行っている	会議は毎回、防災訓練についてなどや運営に関する議題を提供し、意見交換をしている。また、出席者から市役所職員に介護保険制度に関する質問があり、助言をもらったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が行っている	市役所介護保険課とは、書類提出や認定更新申請など日頃から協力関係を築いている。半田市主催の地域密着型サービス会議に職員が参加して情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のカギをしていない 夜間身体ベッド柵もしていない ミーティング等での話でスタッフも十分理解している 玄関にチャイムを付ける等見守りを行っている	利用者がケアサービスの中で、どんなことをされたら嫌なのかをスピーチロックなども含めた事例を出して、話し合う研修を行い身体拘束をしない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に身体の確認を行っている 内出血等あれば、管理者に報告をしている 言葉、心理的、身体的虐待は十分気を付けてお互いにチェックするよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて行っている 現に利用している方はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族・利用者様に意見要望をお聞きし、管理者より職員へ話の内容を報告してもらっている ご家族とスタッフは常に日常生活上で話しやすい関係作り心がけている	家族の来訪やケアプラン作成時に加えて、家族交流会や運営推進会議などで家族から要望を聞くように努めている。家族と連絡帳を作りこまめに連絡している家族もいるが、要望はあまり出ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングで意見交換が出来るよう心がけている 記録作成し、共有している	月1回の全体会議は、食事、レクリエーション、福祉用具についてなどから問題定義をして、話し合い運営に反映している。事業所で判断できない事案については管理者が上司に伝えている。管理者は職員から、半年毎の個別面談以外でも相談を受けることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望や休みの希望は聞いていただけ、時々面談がある 良い職場になるように心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修など受ける機会がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人研修があり、できそうなときは参加するように心がけている 法人研修の時に他の事業所の人と話す機会がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が話されることを聞いて、うなずいたり共感を持つように努めている 意見や要望にできるだけ近づけるように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心していただけるように努力している ご家族の思いを十分くみ取るように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話の中で必要としていることを知るとできる範囲で務めていきたい		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間内で利用者様にあった支援を心がけている 家事などできる方には参加していただき、自分でできることは自分でしていただく 利用者様が何をしたいのか分かるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ゆっくりと会話できるように努めている 利用者様が楽しく過ごせるように心掛けている 来所の際は安心していただけるように近況をお話ししている 一方的なケアではなく相互の理解がされた上でのケア支援をするように心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会が少ない 来所されやすい雰囲気作りに努めている 来所時にはゆっくり会話できる雰囲気・場所づくりに協力する	利用者の知人の来訪や個別外出支援でその人の馴染みの店での外食や買い物に出かけており、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションに取り組んでいる その日の様子で席を変えたりもしている お話の合う方同士をなるべく同じテーブルにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話にて聞き取りを行っている コミュニケーションを取ることで希望や意向の把握に努めている 各自の生活パターンに合った生活環境づくりに心がけている 少しでもほっとできる時間を感じてもらえる努力をしている	個別の外出支援のときなどに、じっくりと話を聞いたり、伝えられない人は家族から聞くなどして、少しでも個別の意向に応えられるよう努めている。行動的な利用者には、積極的に調理や洗濯の手伝いをしてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者が行っている ご家族との会話で把握するようにしている カルテの記録を参照し、以前の生活状況を確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活で変わった事がないか注意している 心身の状態変化を見逃さないように努めている お手伝いをしてもらっている レクリエーションにはできる限り皆さんを誘うようにしている 変化があれば、管理者に報告相談している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様にあったように支援している 利用者様とコミュニケーションを多く取るようにしている スタッフ同士の会話等で忘れていたことを把握したりする	利用者の発した言葉を聞き流さず記録に残し、介護計画作成者のもとに情報を集め、モニタリングや「経過まとめ・評価シート」を3ヶ月ごとに行い、プランに反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことは記録に記入している 記録や申し送りにて情報の収集をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調に合わせた対応を行っている 出張理美容を取り入れている 隣のクリニックを利用 ボランティアの受け入れをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	管理者が行っている 把握が難しい ボランティアの受け入れなどしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院へ受診されることもある 訪問看護ステーションとも連携している 2週間に1度訪問診療に来てもらっている	ホームの協力医は月に2度、看護師は週に1回来訪している。協力医はホームのすぐ隣にあるので、急変時などの連携が取れて安心である。その他への受診は家族対応となっている。病院間は情報提供票にて、連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時、身体の様子等を日誌に記入し、その状況を見て頂いている 医師への連絡がスムーズ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が行っている 退院後も安心して過ごせるように注意点等を聞き対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が行っている 利用者様が過ごしやすい環境づくりと接し方に心がけ、職員で協力し合っている ご家族にも協力を促している	看取りを行うことを入居時に伝え、利用者の状態の変化があればその都度家族と話し合い、同意書を改めてもらっている。 職員は終末期における対応の研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡はマニュアルに沿っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等も定期的に行っている 消火器等の訓練がある	9月には運営推進会議のときに、昼間想定訓練を出席者に見てもらい、後から意見や感想をもらっている。11月には消防署立会いの下、夜間想定訓練を実施し、助言を得ている。ご飯、おかゆ、缶詰、水など7日分の備蓄をしている。	地域との協力を得るためにも、まずは地域の避難訓練に参加することを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを取り会話の中からご本人様の心地よい話題に心がけている 言葉遣いに気を付けている	居室やトイレのドアを閉めたり、トイレでブランケットを膝にかけたりするなど、プライバシーの尊重に心がけている。介護度の軽い人には、声の大きさなどにもさりげなく配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と話し合いながら実現できるようにすすめている 表現が難しい方は表情や行動で早めに気付くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	返答等で理解できるように努力している 利用者様のペースで過ごせるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	相手の立場になって暮らしやすさを考えている パジャマと普段着で昼と夜のメリハリを付けている 起床時に身だしなみができるように支援している 体温調整にも気を付けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事をするようにしている 片づけを利用者様をお願いしている	昼と夜は食材が届き職員が作っているが、手伝うことができる人は、片付けやお盆拭きなどを手伝っている。メニューは決まっているが、時には利用者の食べたいものに変更することもある。回転寿司などの外食をしたり、お弁当を持って外で食べたりすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分をチェックしている 食べやすいように工夫している 人によっては体重測定や水分量等为重点的に見ている方もいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて誘導している 口腔ケアをチェック表に記入している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を見て定期的に声掛けをしている	自立の人は数名おり、トイレの後で確認するなどしている。夜間は自分でトイレに行ったり、ポータブルトイレを使ったり、職員が声をかけてトイレへ誘導するなどの対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬で調整している 水分量もチェックして注意している 水分摂取とトイレ内での腹部マッサージで薬に頼らないようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤等を使用している 一日おきに入浴していただいている 入浴の時間を希望に合わせている	毎日入浴でき、午前と午後とでお湯を入れ替えている。利用者の入りたい希望に沿うよう努めている。拒否する人には時間をずらしたり、声かけを工夫するなどしているが、無理強いはいしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の好きな時に休息していただく		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミスがないように名前と日付の見込みまで確認し、チェック表も再度確認するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事やカラオケ、野菜栽培など取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店へ行ったりご家族の方と話したりしている 天気・気候の良い日には散歩へ出かけている	天気が良い日にはホームの周りを散歩したり、近くのスーパーへ買物に行ったりしている。月に1、2度は近くの喫茶店へ行き、コーヒーを飲むことが楽しみとなっている人もいる。今年度は個別の外出支援に力を入れ、それぞれの外出計画を立て、外食・ドライブなどに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者が行っている できる方にはお渡ししてもよいと思う		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも連絡できるようにご家族と連携が取れている 自己にて携帯を持っている方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候に合わせて照明の調整をしている 共有スペースは広く作られている 季節にあった塗り絵を壁に貼っている	天井が高く、天窓から明かりが入り明るい。掃除が行き届き、臭いも無く清潔である。玄関やユニット入口にはお雛様が飾られ、利用者と一緒に作った花餅もあり、季節が感じられた。行事の写真や手作りカレンダーがあり、居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で座っていただいたり時には移動もされ他の方とふれあいにも心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の配置は利用者様が使用しやすいように工夫している ご家族の写真やお持ちいただいたものを飾っている	長年使っている木の机を持ち込み、好きな本や家族の写真が置かれ、自分の部屋のように居心地良く過ごせるよう配置されていた。テレビや自分の作品なども置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等のないように気を配り、居室には分かりやすいように名前入りの写真を飾る工夫をしている バリアフリーのため安全に生活できる環境づくりがしてある トイレにマークを付けている		